

【本日の説教要旨】

「洪水」

創世記 6:11-22

ルカ 11:14-23

旧約聖書は「洪水物語」(6章から9章)の一部です。長い間イスラエルの人々の間で語り継がれてきた物語です。物語の重複や枝・葉や誇張されているところもあって読みにくいですが、物語の要点は単純です。主=神は地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くのを、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛めました。神は、「すべて肉なるものを終わらせる時が来ている」(創世記6:13)と、大洪水によって地のすべての生き物を滅ぼしました。ただ、ノアとその家族は滅びを免れ、洪水後の新しい世界を生きる神の祝福の証人とされました。

物語はいろいろな見方ができます。そもそも神に造られた人間が地上を腐敗と不法でメチャメチャにしのは、神の造った人間が『欠陥品=出来損ない』だったからではないかという疑問が生じます。また、全能者である神がご自分の作業を『後悔』するのはどうしてか。全能者なら後悔しないでしょう。多分、AI=エイアイ(人工知能)は自らの作業や作品を悔みはしないでしょう。それがAIの使命ですから。

神が創造者であるとは、裏を返せば神は造ったものを壊すことも出来るということです。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう」(創世記6:7)は、「洗い流す」「消し去る」など神の強烈なひっくり返しを意味します。決まりきった固定的で機械的(今日的にはプログラム化された)支配ではなく、その場の状況や結果に対応する自由で躍動的な振る舞いこそ、全能者にふさわしいでしょう。「腐敗と不法に満ちた地」を、神は見過ごしません。神は正義と公平による平和を望まれるからです。

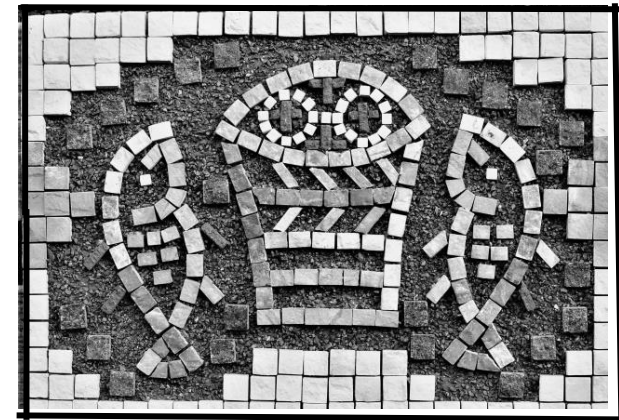
「肉なるものを終わらせる時」は「一つの終末」「終りの日」です。これには二つの意味があります。一つはこの世界は一時的なもので永遠ではない、常に不安定で、誠実な信頼関係を創り維持することは難しいです。二つには、それゆえ最後にはひっくり返されて、新しい神の創造と祝福が約束されていることへの希望です。ノアの選びはそれを伝えます。選びはただ神の思し召し=恵みです。すべての生き物の種の保存は命あるものの共生です。こうして人間の居場所として創造された地は、神の命を育む場として祝福されていることを伝えていきます。

「終りの日」はいつ来るか? 「わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに來ているのだ」(ルカ11:20)。「わたし

日本キリスト教団浦河教会

# 週報

No.49 2023年3月5日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043

2023年3月5日 (No49)

主 日 礼 拝

司会：山本 潔 奏楽：松村宣恵

前奏 讃美歌 85 (二回) 祈り 聖書 創世記6章11~22節 (旧約聖書8頁) ルカ福音書11章14~23節 (新約聖書128頁) 司会者 讃美歌 55 説教 「洪水」 五味 一 牧 師 讃美歌 533 献金と感謝の祈り 主の祈り 62 頌 栄 キリストの平和が (1・5) 祝 禱 報 告

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会 3月8日(水) 午後7時 礼拝堂 ヨエル書1章15~20節 (旧約聖書1422頁) 讃美歌 287、313

【次週の予定】

◇主日礼拝 3月12日(日) 午後2時 礼拝堂 聖書 イザヤ書63章7~14節 (旧約聖書1164頁) ルカ福音書9章21~27節 (新約聖書122頁) 説教 「思い起す」 五味 一 牧 師 讃美歌 57、451

◇第7回定例役員会 3月12日(日) 礼拝後

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 吉田公子 ④ 伊藤知之 ⑤ 山根耕平 ⑥ 岸澤恵美 ⑦ 高崎晋 ⑧ 山本潔 ⑨ 早坂潔 ⑩ 荻野仁

【集会統計】

Table with 3 columns: 集会名, 参加者, 献金. Rows: 主日礼拝 (2月26日) 23名 (子一名) 8,042円; 祈禱会 (3月1日) 5名

♪本日の讃美歌♪

♪讃美歌55「人となりたまえる神のことは」。作詞はロンドンのスラム街で主教として働いたイギリス人のウィリアム・W・ハウ(1823-97)。宮殿に住み自家用馬車を持つ主教と異なり、乗合馬車を利用し、貧しい人と共に住み、共に働いた彼を、人々は親しみを込めて『貧しい人の主教』『乗合馬車の主教』と呼びました。この讃美歌は詩編119編105に基づくものです。作曲は裕福な銀行家の家に生まれたドイツのフェリックス・メンデルスゾーン(1809-47)。17歳で「真夏の夜の夢」序曲を作曲しました。バッハの研究に没頭し、それまで埋もれていたバッハの作品を紹介したことは彼の大きな功績です。自身も多くの宗教曲を作りました。

#讃美歌533「どんなときでも」。作詞は骨肉腫のため入院していた7歳の少女高橋順子(1959-67)。苦しい闘病生活の中で母親と共に教会学校の教師が見守り、励ます中で、この詞を綴ったと伝えられています。作曲は高校2年の時に受洗した高浪晋一(1941-)。国立音大教員、日キ世田谷千歳教会オルガニスト。

頌 栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのこのころのすみずみにまで ゆきわたりますように 5. キリストのゆるしが わたしたちのこのころのすみずみまで ゆきわたりますように

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝 14時 礼拝堂 ◇お茶の会 礼拝後